

International Society of Life Information Science (ISLIS)

The 31st Symposium on Life Information Science
March 19-20, 2011, Yokohama National University, Kanagawa, Japan

国際生命情報科学会 (ISLIS) 創立15周年記念**第31回生命情報科学シンポジウムのご案内**主テーマ **医療と癒しと科学**

ミニ・シンポジウム **命輝く医療とは IV、
スピリチュアルな現象とそれが示唆する人生の意** など

シンポ日時 **2011年 3月19・20日 (土・日)**シンポ会場 **横浜国立大学 工学部講義棟A棟** 〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号

【バス】横浜駅西口10番「交通裁判所循環」バス、岡沢町下車→約5分、大学正門より入り西へ真直ぐ
最寄駅：【横浜市営地下鉄】三ツ沢上町駅→徒歩約16分 【相模鉄道線】和田町駅→徒歩約20分

主催：**国際生命情報科学会 (ISLIS)**共催：**国際総合研究機構 (IRI: アイリ)** <http://www.a-iri.org/iri/>共催：**超党派国会議員連盟 人間サイエンスの会 (NS)** <http://NPO-IRI.org>

本会は、生体機能、脳生理学、精神活動、東洋医学、伝統医学、代替医療、統合医療、超心理学、生体放射、気、気功、精神集中、潜在能力、感覚外認識、精神的物理現象、生物特異機能などの実証的解明を行ない、21世紀の科学・技術の新しいパラダイムを切り開き、人類の平和な文化と福祉に寄与することを目的とする学会です。

参加費 **ISLIS会員 3,000円、非会員前売り 5,000円、非会員当日 6,000円、懇親会費 4,000円**

前売り価格は011年3月10日までにお振込み完了者のみ適用となります。事前申込書を学会ホームページ (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/islis/sjis/islis.htm>) よりダウンロード頂き、必要事項をご記入の上、メール添付ファイルにて事務局 (islis@a-iri.org) 宛にお送りいただくか、FAX (043-255-5482) にてお申込下さい。お振込口座は下記となります。当日受付にて確認できない場合もございますので、お振り込み入力の際には必ず申し込まれた方のお名前が表記されるようお願い致します。

-----振込口座----- **みずほ銀行(0001) 稲毛支店(336)**
普通 4093143 名義 国際生命情報科学会 電話 043-255-5481

第31回シンポジウム大会長 **伊藤 公紀 ISLIS 会長** (横浜国立大学 教授)
〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号 Phone : 045-339-3804

プログラム委員長・副大会長 **河野 貴美子 ISLIS 副会長** (国際総合研究機構 **IRI** 副理事長)

副大会長 **雨宮 隆 ISLIS** 専門会員、横浜国立大学大学院環境情報研究院 准教授

山本 幹男 ISLIS 理事長、国際総合研究機構 (**IRI**) 理事長

実行委員 **中島 啓光** 横浜国立大学 研究教員、**石塚 龍夫** ヒューマンクリニカ 所長、日本催眠応用医学会 会長

小久保 秀之 ISLIS 常務理事、国際総合研究機構 (**IRI**) 研究部長、**根本 泰行 ISLIS** 専門会員、国際総合研究機構 (**IRI**) 主任研究員

高木 治 ISLIS 専門会員、国際総合研究機構 (**IRI**) 主任研究員、**世一 秀雄 ISLIS** 専門会員、国際総合研究機構 (**IRI**) 主任研究員、

伏見 厚彦 ISLIS 幹事、国際総合研究機構 (**IRI**) 広報部長

演題・参加申込先：**ISLIS本部事務局・編集部**

NPO法人 国際総合研究機構 (**IRI**) 内 〒263-0051 千葉市稲毛区園生町1108-2 ユウキビル40A
電話：**043-255-5481** Fax：**043-255-5482** E-mail：islis@a-iri.org

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/islis/sjis/islis.htm>

次回 **2011年 8月25-28日(木-日)** 「第32回 生命情報科学シンポジウム」

不思議現象を説明できる「新しい世界像を求めて」V **山梨県 富士 Calm 合宿討論**

ミニシンポジウム：「輝く命と医療とは」ー統合医療・代替医療の実践体験の交流ー など予定
スピリチュアル、ヒーリング、自然治癒力、代替・統合医療、美容、健康増進、潜在能力、能力開発、自己啓発、超常現象、発表、講演、体験報告、実演、実技指導、セミナー、ワークショップなど

発表・参加申込先：islis@a-iri.org 古谷 (ふるや)、複雑な質問 上記 山本幹男 nsnpoir@gmail.com まで

主催：**国際生命情報科学会 (ISLIS =イスリス)**

共催：**国際総合研究機構 (IRI =アイリ)、超党派国会議員連盟 人間サイエンスの会 (NS =エヌエス)**

会長講演 ■伊藤 公紀 (横浜国立大学 工学研究院 教授)

「東洋・西洋の差について—心理、哲学、宗教、科学、環境」

最近の社会心理学的や脳科学の結果によれば、西洋人と東洋人の外界認識様式の差は大きい。例えばニスペットは「西洋人の視野は望遠レンズ、東洋人の視野は広角レンズ」と書いている。古代ギリシャと古代中国に起因するその差は、さまざまな場面で発現している。分離・分析・理想を特徴とする西洋的認識は、西洋キリスト教の三位一体、個人主義、近代科学、人間中心環境主義などを生み、さまざまな矛盾や環境破壊に結びついた。融合・総合・現実を特徴とする東洋的認識は、このような問題を解決する可能性を持つ。

次期会長講演 ■渡辺 恒夫 (東邦大学生命圏環境科学科教授)

「動物に心はあるか、ロボットに心はあるか」

私達は、「ある生き物に心があるか」の判別基準を、日常、暗黙裡に適用している。この暗黙裡の判別基準を明示化することが、心とは何かに答える道である。判別基準を外的对象自体の特徴に求めるのではなく、対象の特徴が引き起こす私達自身の内的状態に求めるといふ、発想の転換を行おう。そのような内的状態が特定されれば、それを引き起こすような特徴を備えたロボットの作成も可能になり、ロボットの心を作ることにもなるだろう。

教育講演 ■滝口 清昭 (東京大学 生産技術研究所 特任准教授)

「微弱電界測定の新しい展開と生体への応用の可能性」

サメが生餌を検知する生体センサーには、大きな謎がある。それは最新テクノロジーでも到底実現しえない超高感度を接地なしに実現していることである。我々はサメの電界検知器の構造にヒントを得て新しい素子の試作に成功した。また光によって物質や生体の表面に準静電界の発生を見出し、それを用いた新しい可視化技術を開発した。これは表面だけではなく対象物内部の電気特性を可視化できる。本講演ではそれら新たな技術を報告する。

一般講演 ■橋元 慶男 (岐阜聖徳学園大学 教育学部教授)

「笑い Action (動作) が心身の健康に及ぼす介入的研究」

笑いには、生理的・心理的・社会的効果が上げられている。従来笑いに関する先行研究は、ユーモア刺激の提示により、それを判断・解釈して表出された笑いの効果を検証するものであった。心身の相関は「Motion creates Emotion (動作が感情を引き起こす)」の原則を笑い Action の介入が心理面・生理面に及ぼす影響について検証する。



橋元 慶男

■相原 和男 (相原医院 院長) 「人が起こす浮雲消散現象発現と意念治療」

物質、万物、宇宙など、非物質、精神現象、気、霊など、更に小さい不明の存在など、あらゆる存在の根源的構成因子は遍在因である。物質現象 (森羅万象)、非物質現象 (精神現象、霊的現象、超常現象など) などの全ての存在の現象はこの遍在因の変化によって生じる。この遍在因による理論を統一 (神秘) 理論といい、殆どの存在現象はこの理論により解析ができ、説明が可能である。神秘理論の応用により空に浮かんでいる雲がただ見えているだけで数分から10分位で消える現象を生じさせる。また同様に、治療者が患者に触れずにただ見ているだけで、患者の症状を軽減、或いは消失させる意念治療を行う。両現象の共通因子についても話をします。

理事長報告 ■山本 幹男 (ISLIS 理事長、国際総合研究機構 IRI 理事長)

「国際生命情報科学会 (ISLIS) の 15 年半と「潜在能力の科学」の推進



山本幹男



串田剛

一般発表 ■串田 剛 (寿康会病院脳神経外科)

「難病(神経筋疾患)に対するシータヒーリングの試み 心理テストによる効果の経時的評価」

遺伝子の異常から難病とされ、現在の西洋医学では根治が難しいとされる筋ジストロフィーなどの神経筋疾患の患者は希望を失い活動性の低下が起こるおそれがある。特に心理的、スピリチュアル的アプローチが必要とされる。今回著者は遺伝子異常とされる筋疾患の患者に対し数回のシータヒーリング TM 感情やスピリチュアリティ、精神面に働きかけるエナジーヒーリング兼カウンセリングを行い ADL の改善をみたので心理テストによる変化とともにその 2 例を報告する。

■朝日 舞 (日本ライブセラピー協会 代表)

「日本人の意識を喚起し神性の扉を開く 楽以舞療法(ライブセラピー®)」



朝日舞

研究発表 ■橋爪 秀一 (Idea-C. Lab 所長、東邦大学 訪問教授)「アロマのストレス改善効果の検討」

我々は、既に食品、太極拳、凸凹マット足踏みなどの運動が精神的ストレス改善効果を有することを明らかにした。今回は、アロマとしてラベンダーを用いてストレス改善効果を検討した。その結果、適度な香りが精神的ストレスの大きな変動を低減し、ストレスを改善する傾向が認められた。

■橋本 和哉 (医療法人 春鳳会 はしもと内科外科クリニック 院長)

「ヨガを医療に取り入れるポイントとその成果について」

ヨガを医療に取り入れている施設は少ない。また疾患や身体にハンディーのある方では、お決まりのヨガは困難と思われる。当クリニックでは6年前より、一般のヨガをアレンジした、患者さんにもできる動きを考案して実践してきた。試行錯誤の結果、ヨガを医療に取り入れるには、できるだけ寝た姿勢で、ゆったりとした呼吸を伴いながら、血液を十分流し、血液やリンパ液の滞りを改善し、脊髄を矯正するための動きが大切だと考えられた。こうした動きは東洋医学の概念である「気」「血」「水」「脊髄」にも通じている。これによりパーキンソン病の患者さんの歩行障害が改善するなど、疾患のある方での病態改善に役立ててきた。さらにデータの的には湾曲していた脊髄が伸び、柔軟性も改善し、肺活量も上昇改善を認めた。

■小久保 秀之 (国際総合研究機構 生体計測研究所)

「人体近傍のヒーリングパワーの空間分布とその近似式の検討」

ヒーリング中の人体近傍のヒーリングパワー (J 値) の空間分布を、生体センサー (白いぼキュウリの切片) を用いてガス測定法にて定量測定した。被験者は中国人超能力者 2 名、一般公募によるヒーラー 5 名であった。各被験者は眼前の生体センサーに 30 分間の非接触ヒーリングを 2 試行ずつ行い、また、ヒーラーの前後・左右に 50cm または 25cm 間隔で生体センサーを配置して J 値の空間分布を測定した。結果、パワーが大きければ一般のヒーラーの J 値分布の形は超能力者の場合と同じになった。また、分布の近似式からヒーリング現象が従っている物理法則の検討も行った。

■曾 紅（桐蔭横浜大学大学院、帯津三敬病院養生塾・ミトコンドリア細胞呼吸学園）

「順式腹式呼吸法の「呼気強調法」「納気延長法」が血圧の昇降に及ぼす影響について」

本研究において、順式腹式呼吸法の「呼気強調法」と「納気延長法」を用いた高血圧の改善8例と、両呼吸法が血圧に与える影響についての血圧計測60例を比較検討した。呼気強調法には、高血圧に与える降圧作用と、低血圧に及ぼす昇圧作用と、高血圧の眼底出血後の白斑を解消する効果があることが観察された。納気延長法には、低血圧に対して強い昇圧作用があることと、肥満や高脂血症による高血圧に対しては肥満解消とともに血圧の降圧作用があることを確認できた。

■上杉 一秀（熊本高等専門学校 技術センター）

「インターネットを活用した歩行訓練支援システムの開発」

現代社会は急速に高齢化社会が進行し、高齢化に伴う脳血管障害や、交通事故の後遺症などで手足の動きに障害を持つ人々が増加している。これらの人々の自立や社会復帰のためのリハビリテーションは訓練者が意欲を維持しながら訓練を継続していくことが重要である。本研究のシステムは訓練者同士がインターネットを介してお互いに励まし合いながら歩行訓練を行うことによって『訓練への意欲』を継続できるものである。音楽や映像を提示した場合と今回のインターネットを活用した効果の評価を実験後にアンケートおよび心拍、R-R間隔、血圧など生体情報を計測し、検討したので報告する。

■鎌田 明彦（アイリテック株式会社）

「虹彩外周径と瞳孔径との関係並びにその自律神経動態の推定に及ぼす影響」

■河野 貴美子（国際総合研究機構）「各種香りの生体への影響の差異 - 脳波による検討」

閉眼時、後頭部に大きく現れるα波は、神経細胞の活動抑制系の脳波で、脳を静かに休めるほど大きくなることから、リラクセスの指標として多く用いられる。発表者は以前、様々なエッセンシャルオイルを用いて、アロマセラピーにおけるリラクセス効果や香道に代表されるような香りの瞑想的な効果をα波から検討してきた。今回、スポーツの疲労回復時における香りの作用の検討とともに、以前の結果を踏まえて、各種エッセンシャルオイルの生体への影響の差異を脳波により検討した。

■足達 義則（中部大学）「刺激の種類によるリラクセス度の変化」

人は日々様々な刺激にさらされており、これから強弱様々なストレスを受けている。ストレスは自律神経の働きに影響を及ぼし、長期間のストレスが病気の引き金になっていると思われるケースが多く報告されている。本研究では、数種類の精神作業負荷、運動負荷が与えられたときに生じる自律神経の働きの変化を、心拍数、R-R間隔変動のLF/HFの値から測定し、リラクセス度の指標となる副交感神経の働きを推測した。その結果、自然の中での散歩や好きな本の読書、クラシック音楽などをリラクセスを得るために適した負荷として推奨した。

■津田 康民（(財)エム・オー・エー健康科学センター）

「基礎研究：生体エネルギー療法（岡田式浄化療法）が肩の筋硬度に及ぼす影響について」

生体エネルギー療法（岡田式浄化療法(OPT)）の効果が筋硬度等を用いて療法士によって調査された。15分の岡田式浄化療法の自己施術により肩凝りが緩和されること、肩凝り、腰痛、頭痛の自覚をもつ被験者に対し、30分間のOPTの施術により施術箇所の凝りが緩和されることが示された。

ワークショップ 「生命力を活性化しよう」

■小山清二（(仙経頭聖)、経済産業技官） 「心の健康(地球の健康)」

健康を害する要因は殆ど心に関係するが、特に霊的な因果関係が過半を占めている。そこで、人間は精神(肉体)、心、魂から成り立つことを前提に、これらの明確な概念の相違や相互の働きを考察する。これらの概念は現代医学の臓器移植、安楽死、脳死、墮胎などのみならず、また人間の死とは何か、生きる真の目的や意義にも関係する。最後に正しい信仰観を初め、解脱、悟覚に関しても言及し、邪悪な想念を一掃して、人類の正しい想念波動の変革こそが、地球の浄化・刷新から、差し迫った地球の破局への回避にも繋がっていくことを指摘する。

■古川 彰久（(有)伴伴ライ代表取締役、ISLIS 幹事）「生命力活性研究会の発足と波動性について」

本研究会は、現在の科学では未解明な意識、場のエネルギーや情報機能等の存在を認識し、これらのエネルギーや情報機能等を活用することにより自らの自然治癒力を増進し、健全なる心身の実現と生命力を活性化する意識の育成を図るべく、研究および普及活動を推進する。私たちの「いのち」について、今の科学はどこまで解明できているのでしょうか。科学が私たちの生活を向上させるためのものならば、これからの科学は、「いのち」の働きの活性化が、一つの重要なテーマになると考えます。

■高橋 武生、素粒子エネルギー療法研究所所長

「脳と潜在意識」(波動測定のデモンストレーション)

脳は五感を通じて環境から膨大な情報を受け取っている。ハイデルベルク大学生理学研究所のマンフレート・ツイメルマン教授の研究によれば、人間の脳は毎秒1100万ビットもの情報を無意識に受け取っています。私たちが見ている視覚・聞いている聴覚など、意識している情報は五感すべてをあわせても、77ビットしかありません。この科学的研究結果は、なにを意味しているのでしょうか。人間の脳は、環境が発している情報エネルギーを、五感(視覚・聴覚・触覚・味覚・臭覚)の五つの感覚を通じて無意識に受け取り潜在意識に落とし込みます。このことは、五感で知覚した無意識レベルの情報が不快なものであれば脳は、混乱し、ネガティブな感情が働きます。

ワークショップ

■神沢 瑞至（気療塾学院） 「気療で健康増進」



神沢瑞至

■小倉 才子（気診健康センター） 「気診による漢方診断」

気診とは身体を取り巻く気を診断する方法です。術者の胸鎖乳突筋の緊張・弛緩を調べて気の状態や漢方薬の適否を調べることができます。今回は気診を使った漢方診断を体験して頂きます。はじめに、身体のまわりに風邪(ふうじゃ)がついているかどうか判定します。風邪があればそれを取る漢方薬を合わせます。適応の漢方を被験者のオーラに入れますと風邪が取れます。次に身体の気血水のバランスをよくする本治の漢方を調べます。気・血・水のいずれの異常反応が強いかが気診し、気剤・駆瘀血剤・利尿剤のいずれが合うかを診断していきます。敏感な方は、適応漢方を持っているだけで身体の変化、愁訴の改善を感じることができます。

●セロトニン講座

■有田 秀穂（東邦大学医学部統合生理学教授）「現代人とセロトニン神経について」

うつ病やキレるというメンタルヘルスの問題は、脳内セロトニン神経の機能障害に主たる原因があると言える。その根拠は、SSRI（選択的セロトニン再取り込み阻害薬）が治療に有効であるからである。一方、セロトニン神経の活性化因子は、呼吸・歩行・咀嚼のリズム運動であるので、私たちは、坐禅の呼吸法、自転車漕ぎ、ウォーキング、ガム噛みなどが全血中のセロトニン濃度を増やし、脳波に特殊なα波を出現させ、前頭前野の血流を増やし、ネガティブな気分を改善させることを明らかにしてきた。現代人は次第にリズム運動欠乏症に陥っているかもしれない。

「セロトニン神経から見る 音の心と体への影響」

■喜田 圭一郎（サウンドヒーリング協会 理事長） ■中村 泰治（昭和大学名誉教授）

音は情報を持つ振動エネルギーであり、音に含まれた情報は人の心に共鳴し、その振動は体に共鳴する。音は空気より水や骨の中では伝わりやすく、70%の水で構築された人体に対する音の影響は極めて大きい。糸川英夫博士の発案から開発され、喜田らが考案した体感音響は良質の音の振動が全身の細胞、体液に共鳴し、自律神経の通る脊椎に効率よく響き、心身の働きを活性化させる。体感音響の心と体への影響をセロトニン神経から探ってみた。

「セロトニンとタッピングタッチ」

■更科 幸一（自由学園）

タッピング・タッチとは、指先の腹のところを使って、軽く弾ませるように左右交互に優しくたくことを基本としたホリスティック（統合的）でシンプルなケアの技法である。主な効果としては：1）心理的効果（不安、否定的感情の軽減）2）身体的効果（緊張、痛み、ストレス症状の軽減）、3）関係性効果（安心や信頼感の増加）などが実践やリサーチなどで確認されている。東邦大学医学部（有田秀穂教授）での共同研究では、不安、緊張、痛み、うつ症状などの軽減効果で知られるセロトニン神経が活性化されることが示されている。講演では、学校での肯定的な関係作りなどを中心に、タッピングタッチの効果や利用のあり方などを紹介したい。

ミニ・シンポジウム：スピリチュアルな現象とそれが示唆する人生の意味

■大門 正幸（中部大学）・岡本 聡（中部大学）

「退行催眠時の「過去生」記憶の検証」

2010年春の本学会シンポジウムにおいて、退行催眠中に本人が知らないはずのネパール語を話す日本人女性の事例について、異言とみなしうるかどうかという観点から報告した。本発表では、同じ事例について、ネパールでの現地調査の結果を踏まえて、「前世の人格」の実在性および発言内容の正確さ（特に、ネパール人によって、「ネパール語としてはおかしい」と指摘されていた言語面、および「ネパールの習慣とは考えにくい」と指摘されていた習慣面）の観点から報告したい。



大門正幸



岡本聡

■岡本 聡（中部大学） 「五大思想と古典文学」

「五大」とは、世に遍満し、万有を作る五つの元素。地水火風の「四大」に空を合わせたものをいう。「大」は梵語の意識で、元素の意である。芭蕉は仏頂禅師の教えを受ける事により、晩年の十年間は「旅を住みか」とする生活を送った。この背景には、仏頂禅師の禅学、特に「空」を中心とする「四大」という死生観があった。『伊勢物語』の注釈や、古今伝授などの中にも、この「五大」思想というものが顕れている。米国オークリッジ国立研究所が行った放射性同位元素分析によれば、一年間で生有体を構成する原子の99%が入れ替わるという事である。この事から考えると「四大」が「空」を中心に循環するというこの思想は理にかなったものという事になる。本発表では、この「五大」思想が日本の古典文学の中にどのようにあらわれているかを考察したい。

池川明

■池川 明（池川クリニック） 「一般社会に於ける胎内記憶の保有率」

平成20年に行った8つの講演会に参加した617世帯において、構成人数と胎内記憶を有する人数を調べた。この調査は世界初と考えられる。【対象】世帯の構成人数は全体で2467名でそのうち成人は1442名、未成年は1006名であった。【結果】記憶を有する人のいる世帯は80世帯（13.0%）で胎内記憶保有は全体で91名（3.7%）、そのうち成人は18名（1.2%）、未成年は73名（7.3%）であった。



■大槻 麻衣子（大槻ホリスティック） 「前世療法研究～“魂の価値観”とは」

大槻麻衣子

前世療法では、悔いを残したまま終わった、あるいは、思い残すことなく生き切った“過去生”等、様々な“魂の記憶”を思い出すことによって、今生に生まれた意味や目的等を知ることができる。この研究では、前世療法を施した100のケースを分析し、私たちが人生で最も大切にすべきことが何なのか等を考察する。このことによって、“魂の価値観”とは何かをより良く知る為のヒントとなり、スピリチュアリティの実践・応用に役立てることができるのではないかと考える。



■橋本佐由理（筑波大学） 「潜在情報の気づきを支える SAT 療法による健康支援」

人は状況の解釈や知覚をする際に、過去情報を活用する。実は、過去情報の中でも世代間伝達された前世代の情報や胎内期の情報などの潜在化されたものが影響が大きい。生活習慣病はストレス性格病といえるが、このような身体化された問題の解決には、潜在情報がつくり出している自己イメージ脚本の変容が必要となる。SAT療法介入により胎内期や前世代の嫌悪系情報の気づきを支え、自己イメージ脚本を自己報酬系へと変容する健康支援について報告する。



橋本佐由理

ワークショップ 「代替医療としてのヒプノセラピー」

■よしだ ひろこ（日本催眠療法協会理事長・HPS カウンセリングアカデミー代表）

「催眠法を用いて、てんかん症および強迫性障害 2 例の改善の実際」

最近では代替医療としてヒプノセラピーが心療医学の分野から理解と協力が得られるようになったことをなにより喜ばしく思います。慢性疾患の改善や病後のケア、そして予防など応用範囲が広く即効性のあるヒプノセラピーの数々を臨床例を踏まえながら具体的に考察します。

《症例 1》心因性てんかん（30 歳・男性・会社員）6 回のセッションで改善。

症状：てんかん発作・偏頭痛・胃痛・緊張性筋肉痛（全身）・不安感・虚脱感

《症例 2》強迫性障害（22 歳・男性）8 回のセッションで改善。

症状：不眠・頭痛（後頭部の不快、しゃく熱感）・性的妄想・罪悪感・無力感・恐れと憤り・文字恐怖・ひきこもり

■青木 誠（日本催眠療法協会会員・HPS カウンセリングアカデミー卒）

「後催眠暗示を応用した精密筋反射テスト」

後催眠暗示を取り入れた精密筋反射テストは、自己認識の全てのレベルにある個人的事実にとどり着くためのメソッドです。このテストにより、心身からの情報のフィードバックを得ることで、短時間に、ネガティブな感情の深い解放、ポジティブな意欲の選択、学習及び身体能力の向上に役立てることが出来ます。今回は、通常の意識下に比較して、より精度が高いと思われる催眠下での筋反射テストを実演します。

■紺野 みずる、手崎 美和、棚谷 敬太、相川 美奈子（HPS 研究員一同）

「催眠誘導によるイメージの活用法」

催眠下ではイメージ力が活発になります。この特徴を利用した催眠誘導によって、被験者自身が心の働きにより、イメージの世界で短時間に不安や疲れを癒したり、想像力や集中力を高めたりすることができますようになります。

具体的な活用法をワークショップで体験してみましょう。

ミニ・シンポジウム：命輝く医療とはⅣ ～「生き方」が呼び覚ます自然治癒力～

3月19日(土)

■串田 剛（串田統合医療企画 代表） 「理想的な統合医療について」

「シータヒーリング医療研究会とは」 「シータヒーリングデモンストレーション」

■積山 鉄平（国際開健心身法協会 会長）

「皮膚へのヒーリングによる自然治癒力の助長 ～皮膚保湿効果とその成果～」

■櫻井 秀真（地球マネジメント学会 評議員）

「うつからの生還 ～自然治癒力の素晴らしさ～」

■長堀 優（総合病院副病院長 外科部長）「西洋医学と東洋哲学の統合」

量子力学は、宇宙の合一性を明らかにすることで、ニュートンの古典物理学、アインシュタインの相対性理論の限界をはっきりと示しました。さらに最新の細胞生物学や分子生物学は、個々の細胞が、知性・感性をもち、その振る舞いや遺伝子の発現さえも、エネルギーで変わりうる可能性を示しています。つまり、細胞の癌化も、人間の負の想念で起こりうるということが説明されつつあるのです。残念ながら、病気・死を敗北、恐れの対象と捉える西洋医学一辺倒の現在の医療環境下では、患者さんはストレスにさらされます。一方、善悪は絶対的なものではないと考える東洋哲学にこそ幸せに生きるためのヒントが隠されているように思えます。このような想いを踏まえながら、今後の医療はどうあるべきかを考えたいと思います。

■岡部 明美（セラピスト・東海ホリスティック医学振興会顧問）

「魂がワクワクする道を歩みなさいー病からのメッセージ」

■パネルディスカッション 長堀・岡部・桜井・新田・積山・上杉・中

コンサート

■吉田 美里（バイオリニスト）「好きです！バイオリン」

幼稚園に行き始めた時、お友達がバイオリンを弾かないことに驚きました。人間はみんな歯磨きするのと同じようにバイオリンを弾くものだ と信じていたから…。弓から弦へ、駒へ、そして本体へ音が つながっていく、人から人へ五線を越えて音を伝えていけたらいいなと思っています。

3月20日(日)

■内田 香奈子 事例発表 「リンパドレナージの効果」

■新田・高橋・中尾・中 「タッチングによる癒し効果 麻痺患者へのヒーリング効果」

■山本登志美（フラビクス インストラクター） 「フラの癒し効果」

2年半のボランティアフラサークルで感じたフラの魅力、癒し効果、心身に与える影響を中心にお話させていただきます。単なる趣味で始めたフラでしたが、やればやる程心身に素晴らしい影響を与えてくれることに気づきました。ゆったりとした音楽による癒し、華やかな衣装からもらうエネルギー、心からの笑顔…。楽しく続けられる為継続した運動療法としても最適です。フラの奇跡、代替医療への可能性をお話致します。

■パネルディスカッション 長堀・内田・新田・上杉・中・山本